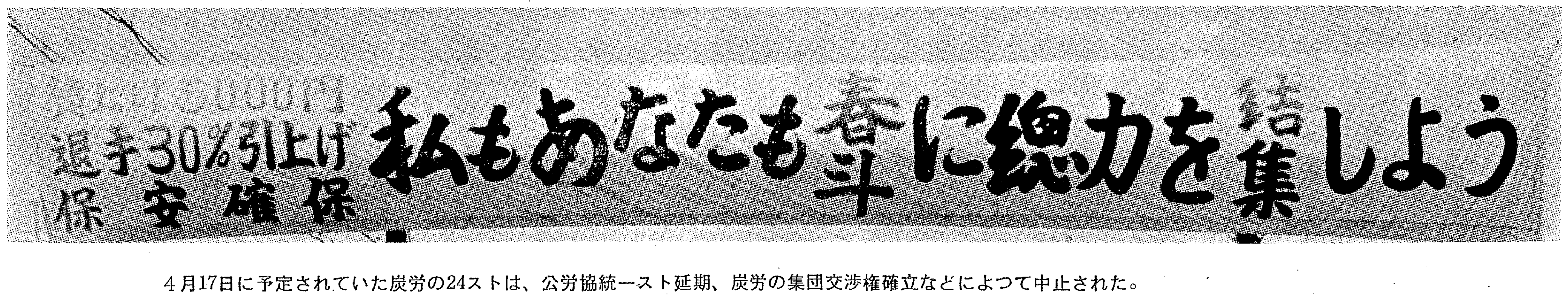
みいけ

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033 8100番
編集兼発行人 澁田紀生

われわれは長期抵抗路線に確信をもち、遺族・被災者を守り、小さな団結を日本中にひろげよう。

組合日誌

4月5日 春斗要求貫徹北九大集会
9日 主婦会中評 全労金オルグ来組
12日 各支部委員会 ニユースカー春斗情宣へ出動
13日 トツプ交渉
15日 大地評春斗戦術委員会囲碁サークル代表者会議
16日 各鉱へ春斗ビラ配布



4月17日に予定されていた炭労の24ストは、公労協統一スト延期、炭労の集団交渉権確立などによつて中止された。

公労協の賃上げは公労委の調停を見守ることになり、4・17統一ストは全体的に延期あるいは中止になつたが、われわれは炭労大会の決定どおり、あくまでも要求獲得まで斗いぬこう。 （写真は三川支部前の横断幕）

春斗決戦段階へ
二十七日から無期限スト

春斗の決戦段階をむかえて、第四〇回炭労臨時大会（三月三一日四月一日）で意志統一された通り炭労全体の統一行動として、いよいよ春斗の実力行使に突入する。

統一斗争を堅持

炭労大会は具体的戦術を決定するに当って、つぎのような基本的態度を決定した。

一、中央委員会（三月五日）が大衆討論にかけた統一斗争をあくまで堅持して、斗争推進をはかる。

二、全体が同一戦術を行使することが困難なので、戦術配慮を行なうが、規模に差はあっても出発から最後まで全体が行動をともにする。

三、戦術配慮は八社ブロック、西日本ブロック、中小ブロックの各ブロック毎に行ない、ブロック内の画一戦術はくずさない。

四、たたかいの時期は春斗全体の波と結合させる。

要求の同時解決はかる

要求指標については賃金、退職手当、保安、じん肺協定の要求の同時解決をはかるよう努力し、対政府要求についても実力行使を背景に目的達成をはかる。

交渉については四月一六日までに会社の最終態度を明確にさせ、対資本の団交と併行させて対政府折衝を進める。

四・二六に総決起大会

四・一七は公労協、交運共斗の実力行使を中心に、春斗の統一行動が実施されるので、この日に交渉権の確立と要求獲得のため、全支部が二四時間ストを決行する。ただし、交渉権が事前に確立した場合、西日本五社・中小は一時間休憩の完全実施、時間外拒否に切りかえる。

四月二六日は全支部が総決起大会を開催し、二七日以降八社ブロック（三井、三菱、明治、住友、古川、北炭、大平洋、雄別）は無期限一せいスト、西日本ブロック・中小ブロックは無期限時間外拒否斗争に突入する。

八社ブロックが了解点に達した場合、八社ブロックは時間外拒否斗争に切りかえ、西日本ブロック・中小ブロックが無期限一せいストライキに突入する。

さらにいづれかのブロックが了解点に達した場合、それ以後、そのブロックは時間外拒否斗争に切りかえる。

内部確立と共斗体制

とくに職場、地域における体制づくり、各支部間のオルグ交流などを実施して統一斗争体制の昂揚をはかり、春斗共斗の組織する集会、動員などに積極的に参加して共斗体制をつくる。

また、この期間に合理化の実態生活の実態などを広く宣伝するよう努める。

オレは重労働で
クタクタ
カアちゃんは
内職でグッタリ
こんな生活は
もうごめんだ

三井鉱山を
石炭資本を
池田内閣を

社会的に追い込む
たたかいを!!

三化 東圧 無期限部分スト
大牟田地区の春斗情勢

（四月七日現在）

【全逓労組】四月四日公労協としてスト宣言を行った。四月十七日統一ストライキに入り、大牟田も参加する。当局側の攻撃は異状な形ではげしくかかっている。

【東圧労組】本日二時半から会社の回答がある。六日スト通告、九日午後一時より全面三時間スト。ひき続き重点無期限部分スト（尿素部門、運転部門）、残業拒否に突入する。会社は支部間、職種間の分裂工作をかけている。

【全九電労】六日に二、四〇〇円の第一次回答があったが拒否。八日にスト戦術について具体的に確立する。一〇日、一七日は他単産の実力行使に合せることになると思う。

【合同労組】二〇数支部のうち解決した支部は白川病院＝一、五〇〇円、三池青果＝一、七〇〇円、田中精麦＝三、〇〇〇円、白金鉄工所＝三、〇〇〇円、西田印刷＝二、〇〇〇円、大店会＝二、〇〇〇円、大天地・中央映劇＝五〇〇円（日給）、江崎印刷＝二、〇〇〇円、大牟田運送＝二九日より部分スト・残業拒否斗争中、鹿田タクシー＝五、〇〇〇円要求に対し四〇〇〇円の回答・会社売り渡し計画あり、その他の支部＝交渉中・五月段階要求斗争、となっている。

【三化労組】六日にスト通告。七日会社回答団交、回答延期の可能性が強い。九日午前七時より部分スト（重点無期限・約五八〇名）に突入する。運転部門は合労に合わせてスト突入。

【三池労組】十七日二四時間全面スト突入。二四日より大手八社は無期限全面ストに突入。

【県職組】賃金は解決、退職勧奨条令（時限条令・四月一日～三〇日）は中旬以降問題になりそう。全体として意志統一して斗う体制をとる。

【市教組】賃金関係は一応終った。退職勧奨問題＝行政措置としてかなり強く出る。一七日の統一行動＝二割の休暇斗争を実施。

【国鉄労組】要求五、〇〇〇円＝鹿児島、長崎、久大、日豊線。

【三煉労組】一七日に半日スト＝第一次回答一、五〇〇円。一〇日一一日に四・八時間スト。一七日以降は無期限全面スト。

【西鉄労組】一七日始発～正午まで全面時限スト（バス、電車、貸切りバスなど一切）

無期限部分スト突入の 東圧労組

政府、資本家側の構え
分断、弾圧、おどし
本性あらわした権力

○…四月七日、鉄鋼労連の拡大中斗は、鉄鋼大手八社の回答に対して、四月一〇日のストを中止することを決定した。

独占と自民党が一体となって、民間、公労協の大きくもり上がりつつある春斗に、最初のクサビを打ちこんだものである。

その効果を見とどけた独占と自民党は、一七日の公労協統一ストの切り崩し、圧殺に全力を集中してきた。

○…大幅賃上げを中心とする労働者のたたかいは、開放経済体制に備えるための大資本中心の政策の結果としての異常な物価高と合理化の不当な強行によって、おさえにおさえられた日本労働者階級の反撃であり、それによって利潤が労働者の手にうばいとられることは、日本独占にとっては大打撃なのである。

春斗を分断し、弾圧し、不成功に終らせることは、資本にとっては階級的ギリギリの必要性になってきたのである。

八日＝自民党総務会「公労協半日ストは違法であり、政府に対して断固たる態度でのぞむよう要請する」

九日＝黒金官房長官記者会見「公労協に自重を求め、効果的PRを考える」・大橋労相国会答弁「違法者は解雇する」・郵政相国鉄総裁「半日ストに警告し厳重な処分を表明」・自民党「春斗対策本部」設置

一〇日＝閣議「スト中止への世論をもり上げ、突入した場合は断固たる処分をする」・全労「スト中止を決議」・国会での政府答弁「違法行為は許せない。参加者は法律の命ずるところにより断固を処置する」

一一日＝国鉄「三月末の春斗行動で大量処分発表」・自民党「違法性をつよくPRすることを決定」・国鉄労組内で分裂工作すすむ

一三日＝政府「公労協スト現場へ監視班派遣決定」・文相「日教組へ実力行使に対しては処分を通告」・官房長官談話「スト指導の幹部、参加の組合員とも処分する」

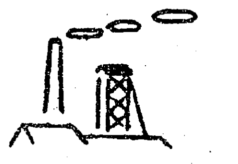
賃上げは五%以下に
日経連、春斗方針を発表

○…これよりさき、日経連はさる一月二〇日「岐路に立つ日本経済と賃金問題」と題する"春斗白書"を発表し、ことしは「開放体制第一年度であり、高度経済成長から安定成長への転換期である」として「賃上げは生産性上昇のワク内において節度のある上昇（五%以下）が絶対必要である。また長期安定賃金の樹立に努力する」との基本方針を発表している。さらに具体策として(1)鉄鋼、電機、造船、化学、繊維、紙パルプ、私鉄、民間放送、相互銀行など、重点業種経営者の結束を固める(2)労使互恵の原則から賃上げの代償として生産性の向上や安定賃金を組合に約束させることを決め、かつてない高姿勢で"労資休戦"の安定賃金制度を推進し、合理化政策の強行をはかっている。

○…また四月九日の関東経営者協会で五十嵐事務局長は「定期昇給分を含めた三、二〇〇円という六日の鉄鋼回答は昨年の訂正賃金という意味があり、他産業はこれを相場とせず、自主的立ち場で経済合理主義を貫くべきだ。公労協の半日ストは目にあまる違法行為で政府当局も法秩序維持に努めてほしい」（四月九日付朝日新聞）

○…また政府もさる三月二四日の閣議で「大幅賃上げは絶対さけるべきである」として、池田首相は「賃上げはあくまで生産性の向上に見合ったものにしなければならない」と発言、日経連と同一歩調をとって"賃金ストップ政策"をうち出した。このため、国鉄、電通、林野などの公労協各組合に対して「初任給六〇〇円引き上げ」を回答させており、ビラはりやリボン戦術などの組合活動を弾圧し不当な処分（全逓など）を強行している。自民党も日教組弾圧の経験のうえに、新しい"労働憲章"草案をつくり、政治資金の提供者独占資本の利益を忠実に守ろうとしている。このように、いままで労働者、資本家の間で"中立"的な態度を示していた政府が、資本家側と一体になって春斗に対する攻撃を加えはじめたことは、ことしの大きな特徴である。

低賃金をうちやぶる
公労協中心に盛上る



分断工作をのりこえて

春斗体制は、大幅賃上げ、最低賃金制獲得などの斗いを中心に、画期的なたかまりをみせている。春斗共斗委員会は「大幅回答（五〇〇〇円以上の要求組合は、最低五、〇〇〇円、それ以下の組合は満額回答）が出るまでは、するどい長期の戦術をかまえ、たたかいをやめない」という斗争指導の基本にたって、かってない春斗の体制づくりに努力してきた。

三月二七日には、大衆行動を組織して春斗実力体制強化をはかり三月末、四月上旬からは民間単産は残業拒否、順法斗争強化などの中で全体としてさらに春斗の昂揚をはり、四月一〇日の民間統一ストを皮切りに、四月一七日の公労協交運共斗の統一ストに歩調を合わせ、春斗共斗統一ストをめざして体制を確立してきた。

四月六日、鉄鋼大手五社は、鉄鋼労連に平均二、三〇〇円（定昇ふくめて三、二〇〇円、要求額五〇〇〇円）の回答を行ない、各民間企業も一部の中小をのぞいて、鉄鋼ベースに準じた回答をつぎつぎと打出した。これは民間と公労協の間にクサビを打ちこみ、四・一七をはじめとした春斗共斗の統一行動の大きな足なみをみだそうとするものであった。

公労協スト宣言

一方、公労協は四月四日「四月一七日を第一歩として、戦後最大の一大ストライキ斗争を不退転の決意でたたかう」というストライキ宣言を発した。

公労協の実力行使は、民間組合の決戦段階の斗いと結合して低額回答を拒否し、春斗全体をたかめる基盤であると同時に、三・一五判決（昨年三月一五日、最高裁が公務員の実力行使について「刑事免責の適用をうける余地がない」――違法である――という判決を下したもの）をふみこえ、スト権奪還という重大な権利斗争の展望にたつものであった。

公労委の調停待つ

四・一七の半日ストは、直前の一六日の太田、池田会談で一、公企体と民間の賃金格差をなくす、二、政府は公労委の結論を尊重するなどの確認をとり交し、一七日のストを延期し、公労委の結論を待つことになった。

五、〇〇〇円以上獲得出る

現在までの各単産の獲得、回答の状況は次の通りである。

【合化労連】龍角散＝六、二四九円満額獲得 六、四五〇円～二、〇〇〇円の回答 一三組合

【全金】石田金型＝五、七〇〇円満額獲得 五、四〇〇円～四、〇〇〇円の回答 六組合

【化学同盟】フエスコ＝八、〇〇〇円獲得 五合化学＝四、一〇〇円満額獲得 六、一五〇円～二、三五〇円の回答 二三組合

【全食労協】五、五〇〇円回答 一組合

【新聞労連】南日本＝三、五〇〇円獲得 読売＝四、三〇〇円獲得 四、〇〇〇円～二、一〇〇円の回答 六組合

【日放連】四、〇〇〇円獲得

【民放労連】大阪テレビフィルム＝三、〇〇〇円獲得 二、三一〇円～七〇〇円の回答 一五組合

【全倉庫】二、六四四円～一六〇〇円回答 五組合

【全鉱】一、五〇〇円～二五〇円の回答 八組合

【全国ガス】熱海＝五、〇〇〇円満額獲得 四、五〇〇円～二、〇〇〇円の回答 一〇組合

春斗に総決起し反合理化斗争の全体的強化をかちとろう

春斗を批判する日本共産党に対する反批判

まえがき

みなさん!!

日本共産党は四月八日「春斗をたたかう全労働者に訴える」という声明を発し、さらに「アカハタ」四月十日付号外を街頭でまき散らしています。

われわれは次のような考え方にたち、どう考えても春斗に水をさすだけであり、日本独占をこおどりさせているこの声明に対し、憤激をもって反批判し、抗議し、その反省を求めたいと思います。

なぜなら、自から労働者階級の前衛党をもって任ずる日本共産党のこの日和見主義と独善的態度が反労働者的言動に堕しきることに、がまんがならないからです。

まず春斗に対するわれわれの構え

三池労組は

五、〇〇〇円の大幅賃上げは苦しい生活実態からみて当然であり、しかも春斗総決起は「反合理化斗争の全体的強化」につながり、結局は憲法改悪、安保体制強化など、一切の政治反動に対決する反独占斗争、すなわち階級斗争の前進をはかるという観点にたち、職場の抵抗斗争を一層強化しつつ春斗に決起することを正式機関で決定（三月二九日、第七回中央委員会）しております。

したがって、三池労組としては、これらの方針を職場、地域で一つ一つのたたかいとして五人組の討議をかさねつつ如何に実行してゆくか、という課題に真剣に取り組むことが当面の急務なのです。

炭労もそして総評も

炭労は現状における反合理化斗争の後退を大胆、率直に認めつつ、その苦悩を克服したこの春斗の総決起により「反撃」にうつることを決意し、そのために大衆斗争路線を全体のものとして長期抵抗でたたかいぬき、四月一七日の統一ストライキが「スト権奪還」、「日韓会談反対」など当面の政治斗争に直結することを強くアピールし、炭労としての「無期限スト突入」を決定しています。

三池労組も総評も、このような賃上げスト一本ヤリだけでなく、賃上げをたたかいとるためにも、いっさいの政治反動とのたたかいを決意し、広く国民諸階層にも呼びかけ、四月一七日の一大抵抗ストライキを広い視野にたった階級斗争として組織しつつあるのです。

日本共産党の声明に対する反批判

われわれが、日本共産党の声明を「日和見、独善的」と断じてはばからない理由は次のとおりです。

(1) 日本共産党は四月一七日の統一ストの先頭になぜ立たないのか。

日本共産党の声明は「四月一七日のストライキは重大な政治問題になることが必至だ。しかし、労働者大衆はこれほどの大斗争をやりぬくのにふさわしいだけの政治的、思想的、組織的準備をもつことができずにいるから、斗争は無防備な孤立したものとなり、分裂をひきおこし弾圧と処分に身をさらすだけだ」といっております。

すでに述べたように、三池労組も、炭労も、総評としても、やむにやまれぬ生活防衛の賃上げに加え、春斗を一切の政治反動に対決する階級斗争として構えておる以上、日ごろ米・日帝国主義反対という高度な政治斗争を自から強調しつづけている日本共産党なら、政治斗争を含むこのようなわれわれの春斗にたいして「孤立化だ」という脅かしをかけるのでなく、むしろ「最大限の共斗」をこそ呼びかけ、われわれを勇気づけるのが順当ではないのか。

それともわれわれ労働者大衆のつきつめた政治的自覚を「そんなものはゼロだ」と独善的に軽視し、労働者大衆の斗志と熱意を見くだして恥じないつもりなのだろうか。さらにこの時点で多少の分裂をおそれ、不当な弾圧からのがれるという日和見主義が、日本共産党のいう前衛党としての態度であっていいものだろうか!!

(2) なぜ安保国民会議が先決なのだろうか。

日本共産党の声明は「もし社会党、総評、各労働組合が、安保国民会議をただちに再開させる現実的態度をとらず、独立、平和の日本人民の斗争に背をむけたままで春斗をおしすすめようとするならば、労働者の斗争を、挑発者、分裂主義者、修正主義者の策謀にさらす危険があります。賃金一本で独占資本と対決するようなやり方で、どうして労働者の生活と権利を守ることができるでしょうか」といっております。

日本共産党は、われわれが反合理化斗争の苦斗の中で反独占斗争を学びとり、確認した上で労働者大衆としての春斗を真剣な階級斗争として構えている事実を、ここでもまったく「見向きもしない」という独断に立ち、さらに「賃金一本の対決だ」と冷笑してはばかりません。

そして日本共産党は、「安保国民会議が再開されぬままの春斗」に大変批判的ですが、われわれは安保国民会議が再開されることが「春斗の条件」だという日本共産党の理屈が、どうしても納得できませんし、その再開のときまで春斗、賃上げ斗争をやらずに待つことはできないのです。

さらに総評の岩井事務局長は四月二日の総評臨時大会で「総評としては、統一行動はお互いが誠意と信頼をもってあたるように努力するという、きわめてだれもが納得できるような常識的な確認で、ただちに安保国民会議の第一三次統一行動を展開するよう、社会党、共産党に申し入れを行ったのであります。これについて社会党からは中央執行委員会で了承をいただきましたが、共産党からは『申し入れの趣旨は理解する。しかし確認する必要はない』という統一戦線部の回答をいただくことになったのであります。私は、社会党にはいままでの経過から問題があるとしても、共産党から拒否されることはないだろうと実はあまく判断し、大変残念だと思います」と述べております。

われわれは「安保国民会議の再開に背を向け、独立、平和の斗争に不熱心なのは、一体だれなのか?」と、日本共産党に反問しないではおられません。

日本共産党の反省を求めよう

これでおわかりのように、日本共産党の今次「声明」は、あらゆる弾圧に屈せず、反合理化斗争を長期抵抗路線で、文字通り家族ぐるみのたたかいとして推進しつつあるわれわれの「春斗」に対する批判としては、まことに残念な許しがたい重大な誤りと独断のかずかずを含んでおります。

日本共産党は、労働者大衆と苦しみを共に分かち合い、反合理化斗争を職場の抵抗のなかから、反独占斗争として推進し、強化しつつあるわれわれともっと身近かなスクラムが組める前衛党であってほしいものです。

以上が、われわれの反批判である。春斗ガンバロウー。

以上

一九六四年四月一三日

三池炭鉱労働組合